

れ、日本の教育者達が何を考え、何を悩み、何を求めてい  
 るかを少しでもうかがい知って来ると、教育者の往く道の容  
 易でないことが分り、彼等の日常の思索と行動の上にも多く  
 の示唆があったことと思う。幸いにして教生の態度は、終始  
 明朗さと真面目さを失わず、周囲の人々に好感を与え、そ  
 のため未だ本学を知らない人々、或は多少の偏見と誤解とを  
 持っている人々に正しい認識と理解とを与えるに役立つたこ  
 とを心から歡ぶ次第である。それにしても本大学が現実の日  
 本に真に貢献し得るためには、こうした学生達の外界との接  
 触の機会に於ても学生自身又大学自身絶えざる研究と反省と  
 が必要であると思う。

### 第三号目次

#### 研究論文

- 寛容について(その二)……………関屋 光彦  
 天皇制とキリスト者の意識……………武田 清子  
 自叙伝にあらわれた国立大学学生の宗教  
 と社会思想……………岡部弥太郎  
 協同と競争について……………古畑 和孝  
 民主主義教育の哲学的基礎……………小島 軍造  
 Anthropology and Educational  
 Theory……………J. A. Lauwerys  
 Education for International Understanding  
 in Shushin Textbooks……………Tori Takaki  
 報告と所感  
 ロアリス博士を迎えて……………日高第四郎  
 書 評  
 T. Romein: Education and Responsibility  
 を読んで……………秋田 稔